



# 興 照 寺 報

平成27年3月

56号

発行 浄土真宗 興 照 寺  
〒890-0045 鹿児島市武一丁目25番12号  
電話 099-254-3269 (代)FAX 099-254-0303



- 一面 怨みに報いるに
- 住職職務執行職の施行について
- 二面 恩愛甚だ断ちがたし
- 報恩講のお話
- 三面 極楽浄土は遠方か?
- 諸案内・門徒会費のお願い等
- 四面



藤川天神の梅

## 住職職務執行職の施行について

四月より住職職務執行の職を新たに設け、副住職瀬川英憲を任じます。

この職は今まで住職がやっていた職務の内、日常的寺務・法務を代行に行うものです。法要の際の主な務め（導師等）などが変わりますが、ご門徒の皆様にはほとんど現在と変わる所はありません。

## 怨みに報いるに

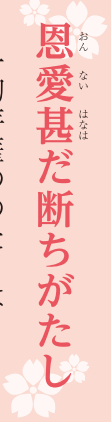
「実にこの世においては、怨みに報いるに怨みを以てしたならば、ついに怨みの息むことがない。怨みを捨ててこそ息む。これは永遠の真理である。」これはお釈迦様のお言葉を集めた『法句経』に出てくる文句です。親鸞聖人の先生、法然上人の父上は武士でした。敵対する相手に殺害されましたが、亡くなる際、幼少のわが子に「敵を恨んではいけない」と言い含められ「私の菩提を弔い、そなた自身も迷い苦しみを離れ、救われる道を求めて行きなさい」と遺言されたそうです。

今年に入りイスラム国に二人の日本人が殺されました。怒りを感じずにはおられない事件です。お互いの怨みを募らせることによって自分達の望みを叶えようというのは真つ当な考えとは思えません。

大変複雑な問題ですから簡単に解決するとは思いませんが、頭の片隅にでもこの言葉を思い浮かべておきたいものです。

このような問題は我々個々の人間同士の間にも起こり得ます。心しておかねばなりません。

阿弥陀様の四十八願の中、三十三番目に”心身柔軟の願“というのがあります。仏さまの願いに出会った者は心も体も柔らかくするということです。心を尖らせるのではなく柔らかくすべてに接したいものです。



# 恩愛甚だ断ちがたし

一切菩薩のたまはく  
われら因地にありしとき  
無量劫をめぐりて  
万善諸行を修せしかど

恩愛甚だ断ちがたく  
生死甚だつきがたし  
念仏三昧行じてぞ  
罪障を滅し度脱せし

この和讃をつくられた親鸞聖人の  
おこころを偲ばせて頂きます



会いたいと想う心の念仏と言いま  
ますと唐突の言葉でありますが、  
私たちの日暮しは、それぞれに縁  
あつて、あの人を憶い、この人  
おもうものではないのでしょ  
うか。

私は昨年十二月、高校以来の  
大切な友の葬儀を勤めました。辛  
い別れでありました。それ以来、  
友を憶うと、むかし読んだ詩の欠  
片がつぎつぎと額を掠めるよう  
になりました。いまでも私の額はひり

ひりとなっています。この詩もそ  
の一片です。

## 「昨日はどこにもありません」

三好 達治

昨日はどこにもありません  
あちらの筆筒の抽出しにも  
こちらの机の抽出しにも  
昨日はどこにもありません

それは昨日の写真でせうか  
そこにあなたの立つてゐる  
そこにあなたの笑つてゐる  
それは昨日の写真でせうか

いいえ昨日はありません  
今日を打つのは今日の時計  
昨日の時計はありません  
今日を打つのは今日の時計

昨日はどこにもありません  
昨日の部屋はありません  
それは今日の窓掛けです  
それは今日のスリッパです

今日悲しいのは今日のこと  
昨日のことではありません

昨日はどこにもありません  
今日悲しいのは今日のこと

いいえ悲しくありません  
何で悲しいものでせう  
昨日はどこにもありません  
何が悲しいのですか

昨日はどこにもありません  
そこにあなたの立つてゐた  
そこにあなたの笑つてゐた  
昨日はどこにもありません

未練の中にあつて、未練だとは  
思いつつも、その未練を断ち切れ  
ず在る自己を詩つたものでしょ  
う。

生きている人と思う時もありま  
すが、殊に先立つたあの人この人  
を思う時念仏が申される。念仏を  
申しても何にもならないと考えて  
いる者でも、親を失い、連合いを  
失い、子をなくした時には、思わ  
ず念仏している事があるのでは、  
愚かな者の念仏とはこうしたもの  
ではないのでしょうか。それ等の  
人を憶う心は、畢竟人間の恩愛の  
心であります。念仏申す心も

恩愛の心が念仏しているのであ  
り、諦め切れない恩愛の心が念仏  
申しているものであつて、殊勝な心  
で念仏しているのではありませ  
ん。そこに恩愛絶ちがたい愚痴の  
凡夫の姿があります。重ねて言  
うと、死んだものはしかたがない、  
どうしようもないとあきらめられ  
るならば恩愛断ちがたいことはな  
いのであり、思つても仕方がない  
と知りつつも思わずにいられない  
ところに煩惱凡夫の日暮しがある  
のです。

念仏は、悟りもなく悩みのまま  
に生き、覚悟もなく死ねる道で、  
生きて生き切れず、死んで死に切  
れぬ凡夫が、恩愛生死のなかに生  
死させて頂ける道ではないかと思  
えるのです。

### ◎最後に詩の欠片二編

友よ ああ暫らくのお別れだ：  
おつけ僕から訪ねよう！

日向に光る黒髪の 悲しや美しや  
あわれ命あるこのひと時を僕は  
見る



## 報恩講法要

講師 田中 誠證 先生

報恩講というのは親鸞聖人のご法事です。報恩の恩とは、ご開山聖人ご出世の御恩。お浄土の教えを分かりやすく示してくださいましたことです。

どのような教えか一言でいうと平生業成へいぜいごうじょうです。平生というのは臨終の対です。臨終と言ったら先のことと想うでしょう。しかし明日はわかりません。間違いなくあるのは今なんです。その今(平生)のお救いが浄土真宗のお救いなのです。これを「先手のお救い」といいます。救ってくださいの方が先に心配してください。救われる私は後、という事です。

どうして南無阿弥陀仏と出来上がって下さったのか、その元が本願です。なので元から聞かせていただかないとわかりません。それを聖人は「仏願の生起本末を聞く」とおっしゃいました。

どうして本願を起こされたか。大水の時、岸の上にいる人と溺れて流される人がいれば、岸上で見物する人を先に救うという事があるのでしょうか？阿弥陀さまのお相

手は、頭が良い、身体が良い(健康)、若い等の反対の人です。悪人というのは世間で言う善人・悪人とは違うのです。これを「悪人正機」といいます。

愛憎、好悪、損得等、自己中心の煩惱は変わりません。例えば私たちの自性は鉄で、金にはならないのです。たとえ金メッキをしても中からサビ(自性)が出てきます。だから私どもは最後の最後まで善人にも仏さまにもなれません。なれなくてもいいんです。阿弥陀さまの本願のお誓いが、そのまま救うと、この凡夫を一番の目当てにして下さっているからです。

死んでからどうなるのかということはいりません。それは仏さまが受け持つてくださいます。

人は死ぬときは一人ですが、俱会一処くわいいつしよといって、またあえる世界お浄土が用意されているんですよ。

(要旨)



昔、駿河の国(今の静岡県)に白隠はくいん禅師という禅宗の有名な和尚さんがおられました。白隠禅師が毎朝早く境内の掃除をされていますと、決まって一人のおばあさんが念仏を称えながらその門前を通り過ぎていきます。

白隠禅師は、自分は修行の身であるから朝の早いのはいたしかたないが、あのおばあさんは、毎朝こんなに早くどこへ行くのだろうと思ひ、ある朝、「ちよつと、おばあさん！」と呼び止めました。「おばあさんは毎朝早くから念仏称えながらこの門前を通り過ぎて行く。このずつと先のあの真宗のお寺へお参りに行くのかい」。「はいはい、あのお寺は私のお手継ぎのお寺です。お手継ぎのお寺の阿弥陀如来様にお礼を申させていたたくために通わせていただいているのです」と言いました。そこで、白隠禅師は「おばあさん、阿弥陀如来とはそんなにありがたい仏様かい」と問いました。おばあ

## 極楽浄土は遠方か？

さんは「はいはい、阿弥陀如来様は私の命の親様です」と答えました。すると、白隠禅師は「真宗には『阿弥陀経』というお経があるだろう?」。おばあさんは「よく存じております」。白隠禅師は

「それなら話は早い。その『阿弥陀経』に、”これより西方十万億仏土を過ぎたところに国があり、それを極楽と名付けそこに存しますのが阿弥陀如来”と説いてあるが、なあ、おばあさん、そのような遠い西の彼方に存します阿弥陀如来がそんなにありがたいかい」と言われました。すると、そのおばあさんは、曲がった腰をぐつと伸ばして白隠禅師の肩に手を掛け、耳元へ大きな声で「ナンマングブツ」と念仏申して、「和尚様、阿弥陀如来様は、ここにいらっしゃる」と言いました。そして続けて「西方十万億仏土を過ぎた極楽はな、あれは阿弥陀如来様の本籍、『ナンマングブツ』とここが阿弥陀如来様の現住所」と答えたそうです。

(「やさしい真宗教義のQ&amp;A」より)

春季彼岸会法要のご案内

三月	午前 十時より	午後 二時より
十八日(水)	○	○
十九日(木)	○	吹上
二十日(金)	吹上	
二十一日(土)	○	○
お中日	○	○

(○)のある日時にあります)

・講師 田村 浩州先生(福岡県)  
前寺報の春季彼岸のご講師名が間違っていました。申し訳ありませんでした。

春季永代経法要のご案内

・期日 四月二十五日(土)

四月二十六日(日)

・時間 朝席 十時より  
昼席 二時より

・講師 田中 了彩先生(福岡県)

※永代経の志納をおあげになりたい方は遅くとも四月十六日まで  
に寺へご相談ください。是非この機会におあげください。

(永代経志納のお勤めは二十六日の昼席に行います)

※永代経をあげておられなくてもどなたでも参加できます。せっかくのご法縁です。ご聴聞ください。

門徒会費のお願い

平成二十七年度の門徒会費のご負担、ご協力をお願いいたします。

■金 額 年額 二千元

■納入方法

- ①ご自宅へお参りに伺った際に収めていただく。
- ②寺へ持参される。
- ③同封の振込用紙を使い、近くの郵便局から振り込む。

(手数料は不要です)

■納付期限

五月末までをお願いします。

「門徒会費」は、興照寺門徒としての自覚を持っていただくとともに、寺の運営活動の一助とする事を目的としています。また、会費納入者の名簿を基に年回忌法要等の案内も行っています。  
彼岸に寺で納金される際は、懇志と区別して、「門徒会費」ですと明示してください。また、領収の半券を忘れずにお受け取りください。

お盆参りについてお願い

お盆のお参りについて、門徒会費の振込用紙を利用して皆様のご希望をお伺いいたします。

詳しくは同封別紙をお読みください。

花祭り

・日 四月五日(日)

・時間 十一時より

・場所 興照寺本堂

(和順会総会も合わせて行います)

・花祭り関係諸募集

■余興参加者

踊り・カラオケ・詩吟・楽器演奏等の参加者を募集します。ふるってご参加ください。

■帰敬式参加者

帰敬式とは法名を受けるものです。法名は本来生前に受けるものです。当寺では、花祭りの際に行っています。是非この機会にお受けください。

帰敬式の受式希望の方、余興参加希望の方は、三月三十一日までにご連絡ください。

諸会会員を募集しています

■親厚会(男性の会)

毎月十七日十八時より

■婦人会

毎月十二日十二時より

■和順会

どなたでもお入りいただけます。四月の第一日曜日に花祭りを兼ねた総会を開いています。いずれの会もいつでも入れます。寺の維持活動の一助ともなります。多くの方の参加をお待ちしています。詳しくは寺へお問い合わせ下さい。

納骨堂募集



古い納骨壇にも空きが  
出ました。  
ご希望の方が居られましたらご連絡ください。

納骨堂管理費のお願い

納骨壇をお持ちの方につきましては、管理費の納入をお願いいたします。

金 額 年額 一万円

同封振込用紙に門徒会費・管理費の合計の金額が記入されていますので、門徒会費の納入方法と同じ要領でお願いいたします。

あ)がき

四月より新たに住職職務執行の仕事が始まります。住職就任以来いつか副住職である弟二名に住職と同じ様な職分をと考えていました。二名とも還暦を迎えるような年齢になり、また昨年息子が法務に就いた事もあり良い時期かと考えました。

新しい試みで試行錯誤の点多いですが、寺のあり方に新しい変化が出て来るのではないかと期待しています。

ご協力を宜しく願っています。